

ねじりはちまき

11月 霧月 立冬 小雪の月になりました。

11月3日、文化の日。7日、立冬。15日、子どもの成長を祝う七五三です。

22日、小雪。23日、勤労感謝の日です。

暦に一粒万倍日（イチリュウマンバイビ）と言う日があります。

一粒万倍は稲の事で、一粒の種もまけば万倍となって稲穂のように実ると言う意味で、少しのものでも、やがてふえて多くの数を生み出す、と言うたとえです。

そのため、何事も良い事の初めに用いられます。とくに商売初めや開店など、金銭を出すのに良い日と伝えられています。反面人から物を借りたり、借金をするのは用いてはいけない日とされています。事の良し悪しにかかわらず、増えて多くの数になる意味があるからですね。

日に日に寒さがつのります。ストーブが恋しい季節になりました。

冬支度は早めに、風邪にも負けない様お祈りしています。

幸田 常一



7月から、福島市の新築工事の現場をお世話になっておりましたが、お陰様で完成いたしました。

現在は、事務所の近くの現場で、住宅新築工事をお世話になっております。

身辺雑感 66

『ダイドコロ』

我が国の平均寿命は、男女とも世界で2番目(女性87.14歳、男性80.98歳)の長寿国に成り、社会のいろいろの面に影響を与えて居る事は皆さまご存知のとおりです。

ちなみに、世界一の長寿国は香港(中華人民共和国=1国2制度の国である。女性87.34歳、男性80.90歳)であるとか。我が国に次いで、長寿国は(スペインの85.42歳、男性がキプロスの80.90歳)、となっているそうです。

香港と我が国との寿命の差を見ると、1歳未満、文字どおり我が国は世界1の長寿国になりました。此のことが社会の各方面に深刻な影響を与えて居る事は皆様方ご承知の通りですが、長寿世界1になった理由を考えると、経済が発展したこと、これに伴い医療技術が長足の進歩を遂げたこと、さらに、国民の食生活が改善され、バランスの良い食生活が確保されて居ること等と考えております。

第2次大戦に敗退した当時のことを思うと、全く夢のような世界が実現したと思わずにおられません。有難いことと感謝しております。

この原稿を書くために、ある月刊誌に書いてあったと記憶しているが、いくら探してもその記事が見つからない。よく家内から最近呆けてきたのではとの指摘を受けるが、少々呆けているのかもしれない。記事には、こんなことが書いてあったと記憶している。「現代人は、科学技術の発達の為、身体を使わずに生活が出来るようになったことは大変有難いことであるが、しかし、反面健康長寿の観点からみると大きな問題を残している。健康長寿を実現するには食生活の改善と運動が大事だと。この運動は、ジムに行ったり、散歩したりしなくても良い。台所で炊事のことをテマメにこなすだけで4年も健康寿命が長くなると言われております。」と。

私の若い時代には、「男子厨房にハイルベカラズ」と云われて居りました。このことを墨守し、結婚した後も男は外で仕事をして得た収入は妻に渡して、妻はその収入の範囲で家族の生活を支えると云う生活を続けて参りました。最近になって台所に立つ事は、運動不足を解消して健康長寿を保つ事と大いに関係して居る事を知りましたが、「時すでに遅く」の感じを抱いております。炊事を含む台所の仕事は女性(家内)がするものと一方的に考えて居りました。この考えを改めるチャンスは、何度もあったのです。

第1番目は、第1の職場を定年退職して第2の職場に移ったとき、第2番目は、

第2の職場から第3の職場に移ったとき、第3番目は何も仕事が無くなったとき(台所に立つ暇ができた。)の、3回チャンスを易々と見逃してしまったのです。

今にして思えば残念でなりません。もう少し前に、台所に立つ事が健康長寿に大きな効果があることを理解できていたならと悔やんでおります。「後悔先に立たず」とは良く言ったものとも考えて居りますが、これには訳があります。私の家内は無類の料理上手(私の口に合う)、料理の名人なのです。仲間から貴方は「幸せだない。」とよく言われます。発言の理由を聞くと、奥さんが料理上手でそれを毎日食べられるからと云われます。

私は趣味で山登りを楽しんで居りますが、天下の晩品である紫蘇のお握り、毎朝の散歩後の朝食の味噌汁の美味しいこと。この食事が私の生き甲斐の1つになっているので、当分家内の手料理を食べて過すしかないとも思っています。

K. S 記

.....

おいしい♥11月(*^_^*)

「 長ねぎ 」

1年中出回っていますが、旬は11月～2月頃です。

寒くなってくると、鍋料理が食べたくなります。

お鍋といえば、長ねぎは欠かせませんね。長ねぎを入れることで味がぐんとよくなります。

長ねぎの青い部分は、カロテンやビタミンC、食物繊維も多く含まれていますので、無駄なく使いきたいですね。

ねぎ特有の強い香りの成分は、硫化アリルという成分によるもので、体内でビタミンB1と結び付きB1の作用を長持ちさせます。

風邪予防や回復促進、疲れやすい、血行がよくない、というときには長ねぎはおすすめの食材なのだそうです。

日本における流入行事

今回は何を書こうかと考えていたら、NHK テレビで「一本の道」というアイルランドを紹介する番組を見た。ハロウィン発祥の地はここだという紹介があった。アイルランドは今もって「ケルト人の文化」が色濃く残っているというのだ。言語的に英語圏だが、アイルランド語（ケルト語派に属する）も公用語として大事に守っているし、音楽や宗教にも受け継がれているという。そもそもケルト人は西ヨーロッパ大陸にいた先住民で、ローマ帝国に征服されてブリテン島（イギリス）とアイルランド島に渡来したのである。イギリス連合の中でもスコットランドはケルト系で、EU 離脱に反対するなどブリテッシュ（イギリス人）とそりが合わないようだ。何時ぞやイギリスのウェールズ出身で日本国籍を有する C・W・ニコル（自然環境保護活動家）の話聞いたことがあるが、ケルト系を先祖に持つ彼がいうには、ケルト人の宗教観や神話は日本のそれと共通しているとのことである。例えば宗教観としては、自然に神々が宿るとして自然を崇敬するのがケルトの信仰で、日本古来の神道の信仰態度と共通しており、キリスト教を受け入れてもその基本的態度は変わることなく、今日ではケルト・キリスト教と称されるようになっている。

さてハロウィンの話に戻す。ハロウィンは今では日本でも認知度が高まってきている。でもその起源については、アメリカ発の収穫祭のように受け止められているのではないか。実のところハロウィンはアイルランドからの移民によってもたらされたものだというのだ。ハロウィンはそもそも古代ケルト人起源の秋の収穫祭であり、悪霊を追い払う祭りなのである。ではアイルランドからアメリカへの移民がなぜ行われたのか。その原因は様々あるようだが、大きなきっかけは1845～49年ごろ主食用作物のジャガイモが原因不明の胴枯れ病にやられ不作となり、飢餓状況を招来したのであった。そんなことから、その時期だけで大陸を目指して150万～200万の人がアメリカへ渡ったのだという。全部で700万人と言われている。そしてアメリカ各地でハロウィンが行われるようになり、世界に発信され、日本にも1970年代に受け入れられるようになった。日本では宗教的要素が薄く、どちらかというと商業的要素が強い。つまり一種のイベントである。ハロウィンは10月31日。日本でポピュラーなのはカボチャをくりぬいてお化けを造り、ゾンビや魔女に仮装して街を練り歩くというイメージ。この祭りには、子供たちにとっては仮装して各家を周り「お菓子をくれないと悪戯をするよ」といってお菓子をもらい、あとでパーティをする楽しみがあったという。ハロウィンは起源からいってキリスト教とは全然関係ないので、今では、アメリカでも宗教的意味合いはほとんどなくなっているようだ。古代ケルト人からいえば何故10月31日に行うこととしたのには、もっと宗教的に深い願いが託されていたとのことだが、今のハロウィンを見てどう思っているだろうか。

余談だが、ラフカディオ・ハーンこと小泉八雲をご存知だろうか。彼はキリスト教に懐疑的で明治期に日本に帰化してしまった人で、何と日本の怪談に興味を持ち、日本の怪談を紹介した著書「怪談」を著しているが、彼の祖国はアイルランドでケルト系なのだという。

次はクリスマス話に移ろう。これはご存知のとおり日本の年中行事としてすっかり定着している。その日になると、街にはクリスマスが近づくとジングルベルのメロディーが流れ、クリスマスツリーが飾られ、人々は皆クリスマスケーキを買って家に帰り、子どもはサンタクロースのクリスマスプレゼントを楽しみに待つといった具合だ。大方はキリスト教への信仰ではなく、お祭り気分の商業主義的色彩が濃いものとなっている。そもそも日本では、明治33年明治屋が銀座に進出して、クリスマス商戦を初めて展開したという経緯があるようだ。では、本来というか、キリスト教では「クリスマス」をどう位置付けているのか見てみよう。キリスト教では、クリスマスを「聖夜」として「イエス・キリストの降誕を記念する祝日」としてお祝いする。「降誕」は「誕生」であるが、キリストの誕生日そのものではない。誕生日は不詳である。クリスマスが12月25日とされたのは、

西暦345年(ローマ帝国時代、キリスト教が容認される)西方教会が12月25日を降誕祭としてお祝いしたのが始まりと伝わる。キリスト教圏では、クリスマス・マーケットの賑わいぶりも報ぜられるが、クリスマス当日は家族がそろって過ごす時間を大切にするのだという。その方が信仰者としては主イエスの御心に叶うように思えるがどうか。日頃疎かになりがちで、己が生き方をしみじみと振り返る日にした方が良いかも知れない。

実はクリスマスがなぜ12月25日であることが気になって調べてみたら意外なことがわかった。クリスマスの日では日本では冬至の2~3日後でほぼ重なる。冬至はこれより冬になるという意味だが、ご承知の通りその日は日本のみならず北半球では最も昼が短い。つまり冬至を境として昼が長くなるということである。自然と人間にとって太陽は不可欠の存在だ。昼間が短くなるのはその太陽が死に近づき、昼間が長くなるのは太陽が復活することである。昼が短くなることは人々を言い知れぬ不安・恐怖に陥れたことであろう。それだけに昼が徐々に長くなることは大いに喜びをもたらしたに違いない。厳しい冬を乗り切ることを願い、太陽の復活をお祭りする「冬至祭」が行われたことは容易に想像できる。

(実は日本でも冬至には百を超える神社で冬至祭が執り行われているそうだ) 古代ヨーロッパではゲルマン人が「ユール」という冬至祭を行っていたとのこと。北欧では今でもクリスマスを「ユール」と呼んでいる所があるという。どうもクリスマスの今の形は、永い歴史の中で「太陽の復活」と「キリストの降臨」が結び付いたもの、つまりヨーロッパの冬至祭の風習とキリスト教の信仰が結び付いたものらしい。皆さんはどう思われますか。

次は「バレンタインデー」の話に移ろう。2月14日のこれもすっかりお馴染みになっている。先ずその由来を尋ねると、バレンタイン(英語名)は人の名で、ローマ帝国時代にまで遡る。当時兵士は戦闘意欲を欠くので結婚が禁止されていたが、キリスト教(公認されず、迫害されていた)司祭であったバレンタインは密かに仲立ちをして結婚を勧めた。それが皇帝の知る所となり、皇帝から勧められた改宗を拒んだので、終に西暦269年2月14日に処刑されてしまった。もう一つ説明が必要だ。当時ローマでは女神ユノの祝日が2月14日で、この日に男に桶に入れたカードを引かせ、カードに記載された女と一緒に1年過ごしてもいい風習があった。これでは風紀が乱れるとして時の皇帝が聖人のカードを引かせるようにし、引いたカードの聖人に習った生き方を1年間するように変えたのだそうだ。やがてその聖人のうちバレンタインが加えられ、バレンタインの業績に因みカップルが愛を誓うというふうに変化していったらしい。そしてカップルのみならず、愛しい人に思いを込めたカードを贈るようになったとのこと。これが欧米のバレンタインだが、日本ではなぜかチョコレートを贈る習慣になっている。これは日本だけだという。実は1958年に東京都内のデパートでチョコレート業者がバレンタイン・セールスを行ったのが始まりとのことだ。ハロウィンやクリスマスと同様に商業主義が先行している。しかし、日本人というのは誠に不思議なもので、何でも抵抗感なく受け入れてしまう傾向がある。こういうのを心が広いというか、抱擁的というか、好奇心が強いというか、何と言ったらいいのだろうか。是非この傾向を良き方向に使っていければよいと思うのだが。

<会社近況>

11月に入りました。
早朝には気温がぐんと下がって、白く見えるほどの霜が降り、冬間近といった感じです。
福島市の現場はお陰様で完成いたしました。
現在は、本宮市の現場で（事務所の近く）住宅の新築工事をお世話になっております。来年の春には住宅が完成いたしますし、お子様は小学校へ入学されます。すばらしい年になりますね。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

自宅のお庭を散策してみる…

この時季は枯れ葉や雑草が気になるところです。
花が終わった植木鉢も、外から見ると意外と目立ちますので片付けるといいですね。
夏の間、きれいに咲いて楽しませてくれた朝顔やふうせんかずらなど、もうとっくに種をつけています。丁寧に取っておくと、また来年も楽しめますね。たくさん取れたときは、花好きの友だちにおすそ分けしてはいかがでしょうか？
素敵な封筒に入れてあげたり、花の名前や種まきの時期を書いたり、花のイラストを画いたりして。ちょっとしたプレゼントにもなります。
庭にまだ咲いている花や植物などを使って、スワッグ作りも楽しそうですね。スワッグはドイツ語で「壁飾り」という意味だそうです。
好きな花や植物を組合わせて紐やリボンでまとめ、壁に飾ります。
摘んだばかりの花の状態からドライフラワーになるまで、ずっと楽しめます。雪が降る前に、お庭の散策してみませんか？きっと楽しいですよ。

.....

平成29年11月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話… 0243-44-3816

<後記>

事務所の庭のもみじが色あざやかで
とってもきれいです。
ここ数年もみじ狩りに行けませんでした
が、山々を眺めたりもみじを見たりして
楽しんでいます。 （事務員k）